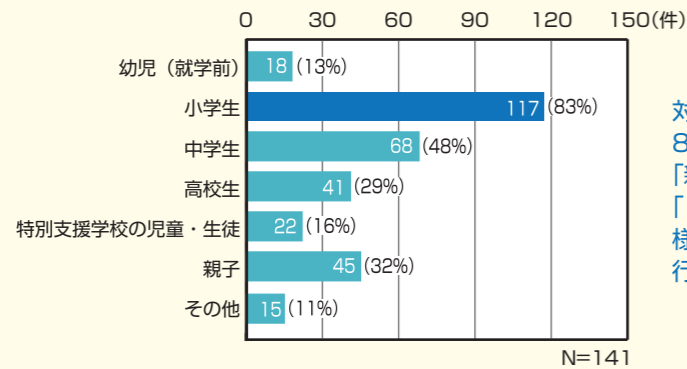


「土曜学習応援団」へのアンケート結果

文部科学省が、平成28年度に実施した土曜学習応援団のアンケート結果の一部をご紹介します。
調査方法: WEB調査 / 調査期間: 平成28年10月17日～11月9日 / 調査対象等: 土曜学習応援団賛同の702民間企業・団体

1. 誰を対象に学習プログラムを実施しましたか

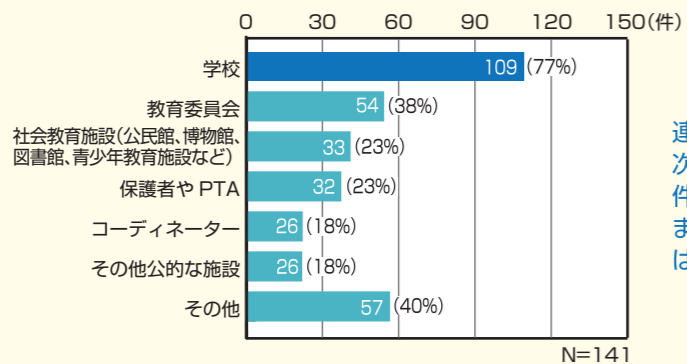


対象は、「小学生」が141件中117件、83%と最も高く、次いで「中学生」、「親子」の順となっている。「その他の具体的な回答例」からは様々な対象者に対してプログラムが行われていることがうかがえる。

【その他の具体的な回答例】

教職員(7) / 大学生・専門学校生(2) / 高等専門学校の生徒 / 長期入院の児童・生徒(院内学級) / 児童養護施設の子供たち / 幼稚園・保育園の教職員 / 幼児の保護者 / 各種団体(ガールスカウト、ボーイスカウト、児童会等)の代表等 / 地域の指導者 / 障がい者の就労施設に勤務されている成人の方々

2. どこと連携して学習プログラムを実施しましたか

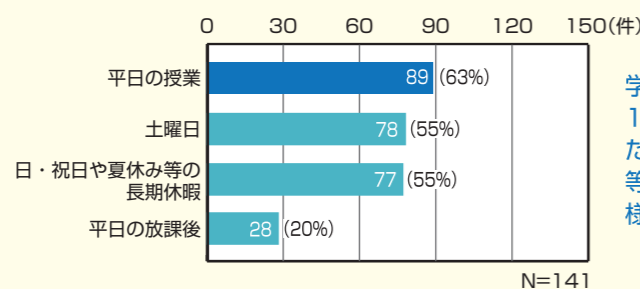


連携先では「学校」はもちろんだが、次いで「教育委員会」が141件中54件、4割弱となっている。また、「その他の具体的な回答例」には多様な連携先が見られる。

【その他の具体的な回答例】

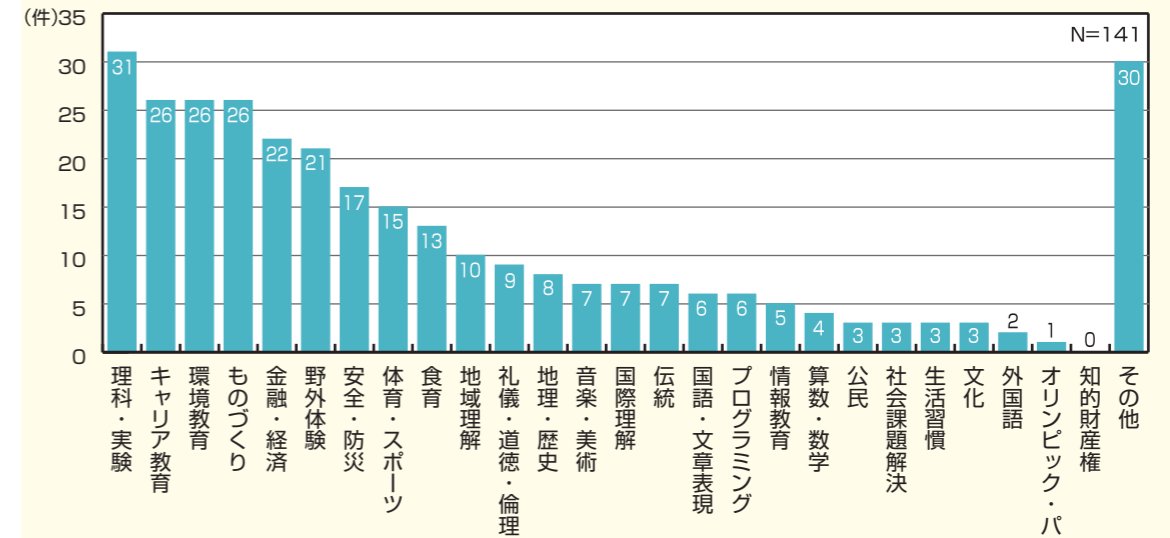
企業(6) / NPO団体(2) / 大学、大学サークルの学生(2) / 財務省、地方財務局 / 市町村 / 地域の高齢者施設 / 知的障害者等の就労支援施設 / 警察 / 社会福祉団体 / 病院 / 放課後子供教室 / 幼稚園、保育園

3. どのような機会に学習プログラムを実施しましたか



学習機会としては、「平日の授業」が141件中89件、63%と最も高かった。次いで「土曜日」「日・祝日や夏休み等の長期休暇」はいずれも55%と、様々な機会での活動が実施されている。

4. 実施した学習プログラムのテーマは何ですか

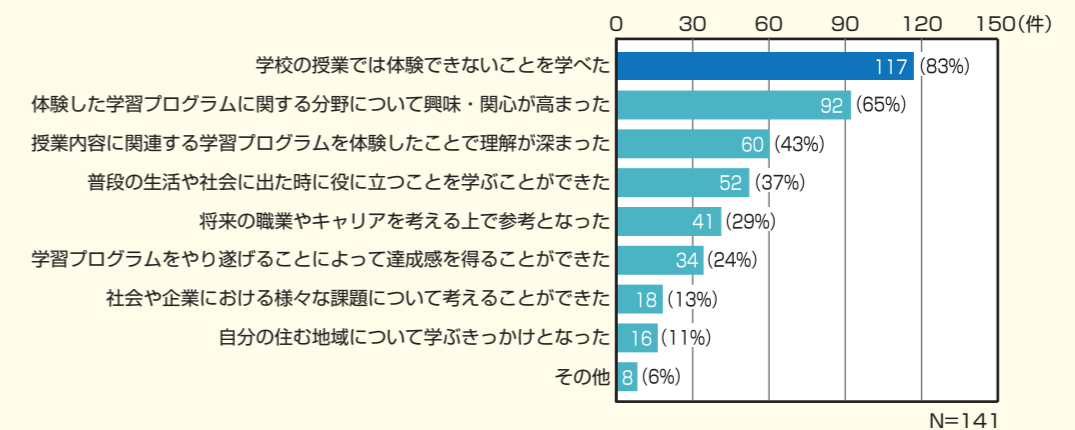


学習プログラムのテーマについては、「理科・実験」が最も多く、以下「キャリア教育」、「環境教育」、「ものづくり」と続く。「その他の具体的な回答例」をみると、民間企業・団体等の特性を生かした、多様でオリジナリティの高い学習内容がうかがえる。

【その他の具体的な回答例】

・人間関係づくり、コミュニケーション、自己理解・他者理解
・平和学習
・消費者教育
・起業家教育
・スマートフォンや携帯電話の利用に関連した安全教室
・新聞の読み方、作り方
・財政教育(主権者教育の一環)
・ユニバーサルデザイン
・気象知識の普及、気象防災の啓発

5. 活動実施後に参加者からどんな声がありましたか



参加者からの声では、「学校の授業では体験できないことを学べた」が141件中117件、83%と最も多く、学校だけでは実現しにくい深い学びや社会とのつながりに対する気付きなどへの評価が高い。

【その他の具体的な回答例】

・地球環境やエネルギー資源の大切さを考えるきっかけとなった
・親子で参加できてよかった
・夢が明確になり、夢を叶えるために努力しようと思った
・掃除の大切さがわかった
・情報収集手段、情報活用について理解を深めることができた
・普段、できないことができるのがとにかく楽しい